

研究構想シート	学校名	飯南町立志々小学校
	氏名	川上 真理恵
A 研究主題 自然と向き合い、主体的に問題を解決する理科学習 ～自ら問題を見だし、他者の考えを受け入れ、表現する児童の育成～		
B 研究の目的 児童が「理科の見方・考え方」を働かせながら、「問い」を見だし、獲得した知識や生活経験と結び付けながら問題を解決することで、児童主体の問題解決学習を実現する。		
C 子どもの実態 ◎間接指導におけるガイド学習の積み重ねにより、「どうやって」にあたる課題の解決方法を示し、見通しをもたせることで、ある程度は自分たちで学習を進めることができる。 ◎学習課題に取り組む際に、既習内容を活用しようとする態度が身に付いている。 △両学年合同で同単元同内容の指導形態の場面でも、ガイド(教師)に依存しがちな傾向があり、 <u>受け身な姿勢</u> である。 ・児童が主体となって学習課題を設定することが難しい。 ・児童の思考の流れに沿わない教師の一方的な教授が多くなったり、児童の中での「意見をまとめるのは先生」という思い込みがあり、児童が自分の思いや考えを表現しなくても学習が進んでしまう。 ・身の回りに豊かな自然環境はあるが、自然体験や生活経験が市街地で生活する児童と変わらず、学んだことを次時の学習問題の設定に生かしたり、実生活に生かしたりしようとする探究心につながりにくい。 【小規模校・複式学級】 ・多くの考えや意見が出にくく、広がりや深まりが見られにくい。	E 手立て・内容(研究仮説) 【具体仮説Ⅰ】 児童の中で「なぜ?」「どうして?」といった認識のずれが生じるような自然の事物・現象との出会わせ方の工夫により、「調べたい」「確かめたい」という意欲をもち続け、問題解決に粘り強く取り組むことができるであろう。 ・「自然事物・現象への働きかけ」と「問題を見いだす」場面での指導方法の工夫 ・児童の「なぜ?」「どうして?」を引き出すための学習環境づくり 【具体仮説Ⅱ】 自然の事物・現象、既習の内容や生活経験を根拠とした予想や仮説をもち、より妥当な考えをつくり出そうと話し合いをすることで、科学的に問題を解決することができるであろう。 ・児童自身が比較しなくなったり、共通性・多様性の視点で捉えなくなったりするような場の設定や教材の工夫 ・ICTを活用した、実験・観察の記録・蓄積、学習過程の可視化	D めざす子どもの姿 ・意欲をもって自然事象と関わり、見出した問題を思いや願いをもって、科学的に探究できる子ども ・他者と関わり、自分の考えを深めていく中で、進んで表現する子ども ・粘り強く解決に取り組み、学んだことを日常生活や学習に生かせる子ども
	F 検証方法 ・授業参観 ・児童観察 ・タブレット等のデータ ・児童の振り返り ・アンケート 以上を基に、子どもの変容を見取る。	
	G 研究計画 4・5月 児童の実態・目指す姿・手立てについて協議する。□ 6月 校内研究授業 夏季休業中 校内研修(出前講座4年「水のすがたと温度」)・1学期の振り返り 授業構想、指導案作成 11月 校内研究授業 12月 2学期の振り返り 1・2月 今年度の研究まとめ(研究仮説・手立て等の検証と評価) 3月 来年度の研究に向けて	